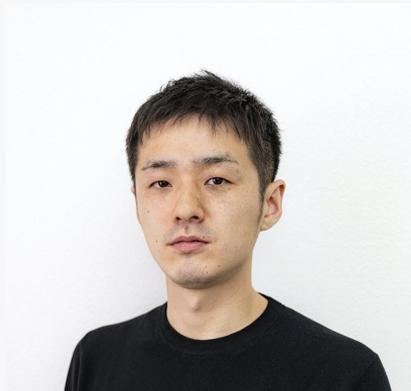


データミックスのご紹介

2020年

自己紹介



Ryoichi Fujita
藤田 亮一
(取締役 COO)

在学中に公認会計士試験に合格し、新卒でKPMGあずさ監査法人に入社。経営コンサルティング会社コーポレートディレクションを経て、2014年4月アマゾンジャパンのリテールファイナンス部門でハードライン事業の戦略立案・KPI管理を担当。2017年～2018年、クラウド会計フリーの財務責任者として、上場準備プロジェクトや資金調達を実行。2018～2019年ツイッタージャパンを経て、2020年1月より現職。

学歴

- 上智大学経済学部経済学科
- 元公認会計士

HELLO WORLD!

1. 会社紹介
2. データミックスの講座概要
3. データサイエンティスト育成コースの特徴
4. 受講生の声とデータ

ABOUT

会社概要

会社名 株式会社データミックス
(DATAMIX CO., LTD.)

所在地 東京都千代田区神保町2-44
第二石坂ビル2F

創業者 代表取締役 堅田 洋資

設立 2017年2月1日

資本金 9,360万円 (資本準備金を含む)

社員数 23名 (2019年12月1日時点、アルバイト・インターン含)

取引銀行 みずほ銀行 銀座支店

事業概要 データサイエンスに関わる教育・研修・コンサルティング事業
有料職業紹介、ビッグデータ、人工知能、機械学習に関する法人向け研修



データミックスについて

人で、データサイエンスは強くなる。

ビジネス変革の鍵として、あらゆる企業が注目する「データサイエンス」。しかしわたしたちが伝えたいのは、どんな可能性を秘めたデータも、それを扱う「人」なくしては機能しないということ。データサイエンスの強みと限界を理解し、正しく活用できる「人」がいてこそ、その可能性は最大限に発揮されます。分析技術の追求だけでなく、その技術で、世の中をどう動かせるかを考える。データを扱うすべての人にこの意識を広め、その輪を大きくしていくことがわたしたちデータミックスのミッションです。新たなビジネスの創造、企業活動の活性、人々の暮らしの向上。データサイエンスを手がける「人」のあり方が、これからの社会をよりよい未来へと導く。わたしたちはそう考えています。

Our Service



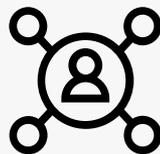
✓ School

データサイエンス人材としての
キャリア・スキルアップを目指す
社会人向け、教育事業
(BtoC)



✓ Training

データサイエンスに関する社内向
け集合研修やカスタマイズ研修
(BtoB)



✓ Recruiting

スクールの受講生・卒業生の中
で、希望者には転職支援を実施
(BtoCtoB)



✓ Consulting

AI・機械学習といったデータサイ
エンス領域からデジタル化による
業務効率化・新規事業創出(DX)
まで含む、データビジネスコン
サルティング
(BtoB)

講座体系

【データサイエンティスト育成コース】

Live配信対応

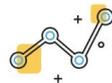


【オンラインプログラム (E-learning)】



Python入門

プログラミング未経験でも業務効率化



Statistics

ビジネス統計

実践データを使った分析のリアル

データサイエンティスト育成コースの特徴

育成コース本講座の学習ゴール

✓ 高度なデータ分析技術を用いて**ビジネスの課題の解決**ができる

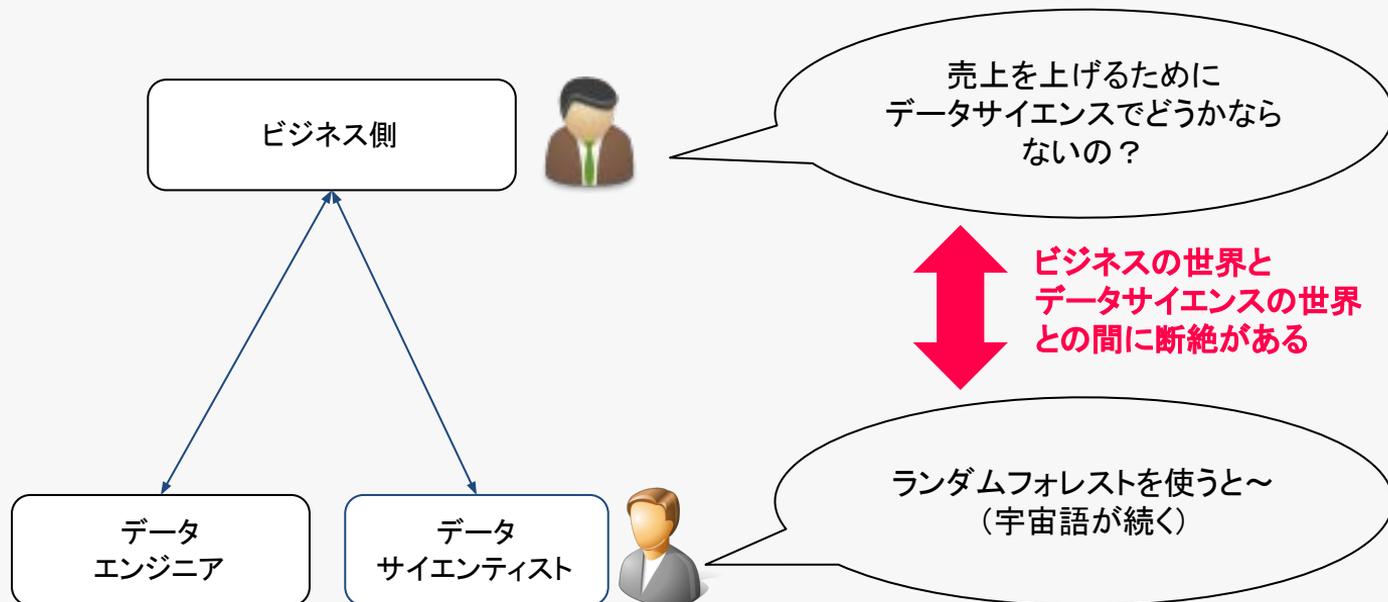
- 「なぜこの分析手法を使うのか」を**技術的な側面とビジネスの側面**から判断できる
- **Python**や**R**を使って求められている課題に対し適切な分析手法を実行できる
(やってはいけないことも理解している)
- 分析結果をクライアント（社内・社外問わず）に**わかりやすく説明**できる

講座の特徴

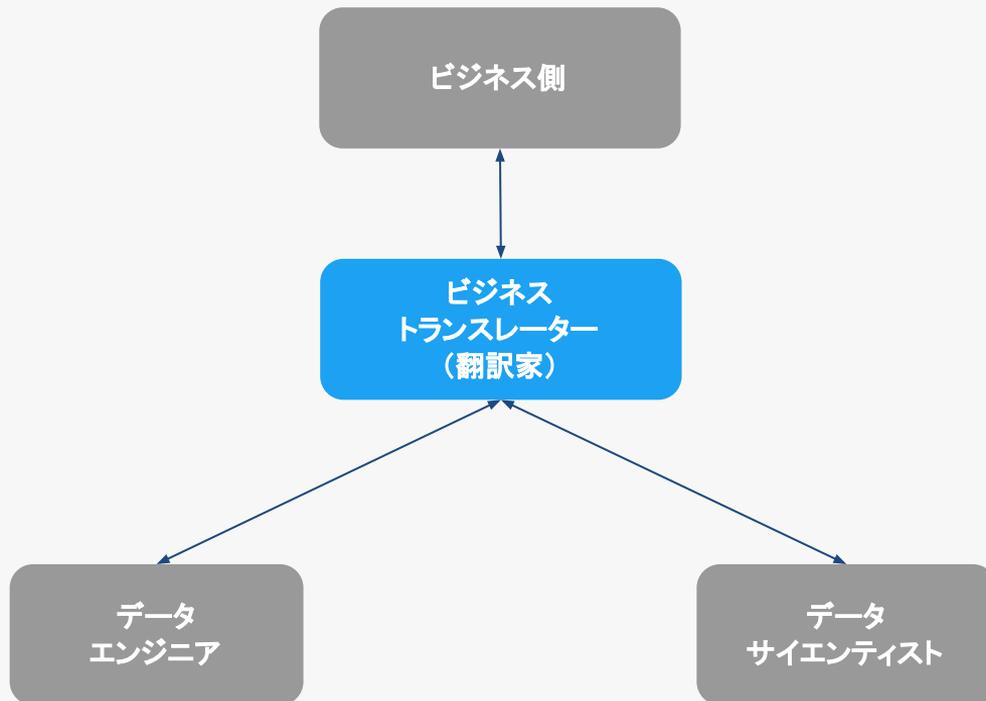
- **体系立てて**学習することで、データ分析技術の引き出しを増やします
- 理解を深めるための**クイズやハンズオンでの演習（予復習含む）**を数多く実施し、理解するだけでなく手を動かせることを目標にします
- 生徒数に対して講師やTAを適切に配置しますので（1クラス15~20人まで）、クラス内での議論や講師とのやりとりを多くすることで内容の理解を深めることができます

なぜデータ活用が進まないのか？

2010年に入ってから、「ビッグデータ」に始まり「データサイエンティスト」やAIといったバズワードが生まれてきていますが、ビジネス活用が大幅に進んでいません。その理由のひとつが、ビジネスサイドとデータサイエンスの専門家側との断絶にあると考えられます。

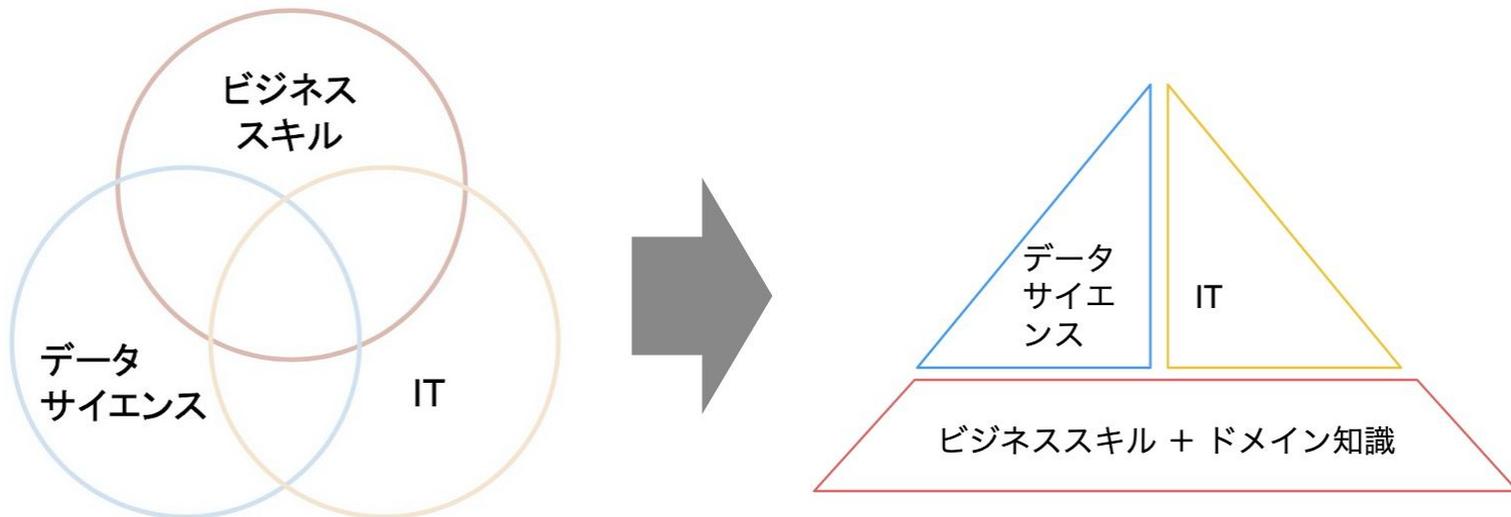


データ活用を推進するために必要な役割



ビジネストランスレーターの人材要件

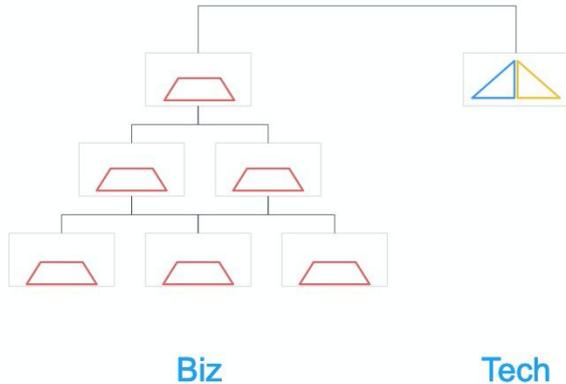
ビジネストランスレーターとして機能するためには、ビジネススキル・ドメイン知識を土台に、データサイエンスやITスキルを身につける必要がある。



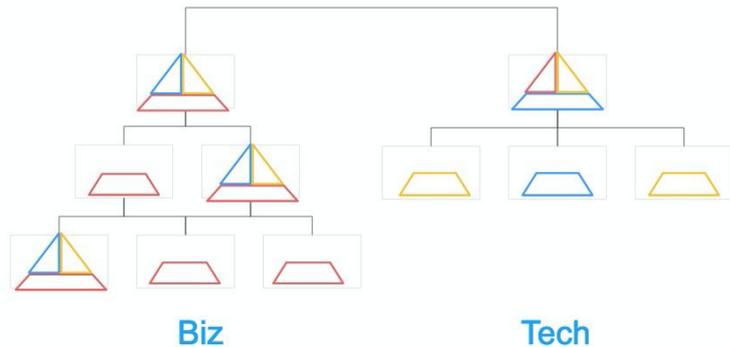
テック企業の強み

テック企業では、ビジネス側の組織にビジネストランスレーターが要所要所で配置されており、全社としてのデータ活用を促進する役割を担っている。

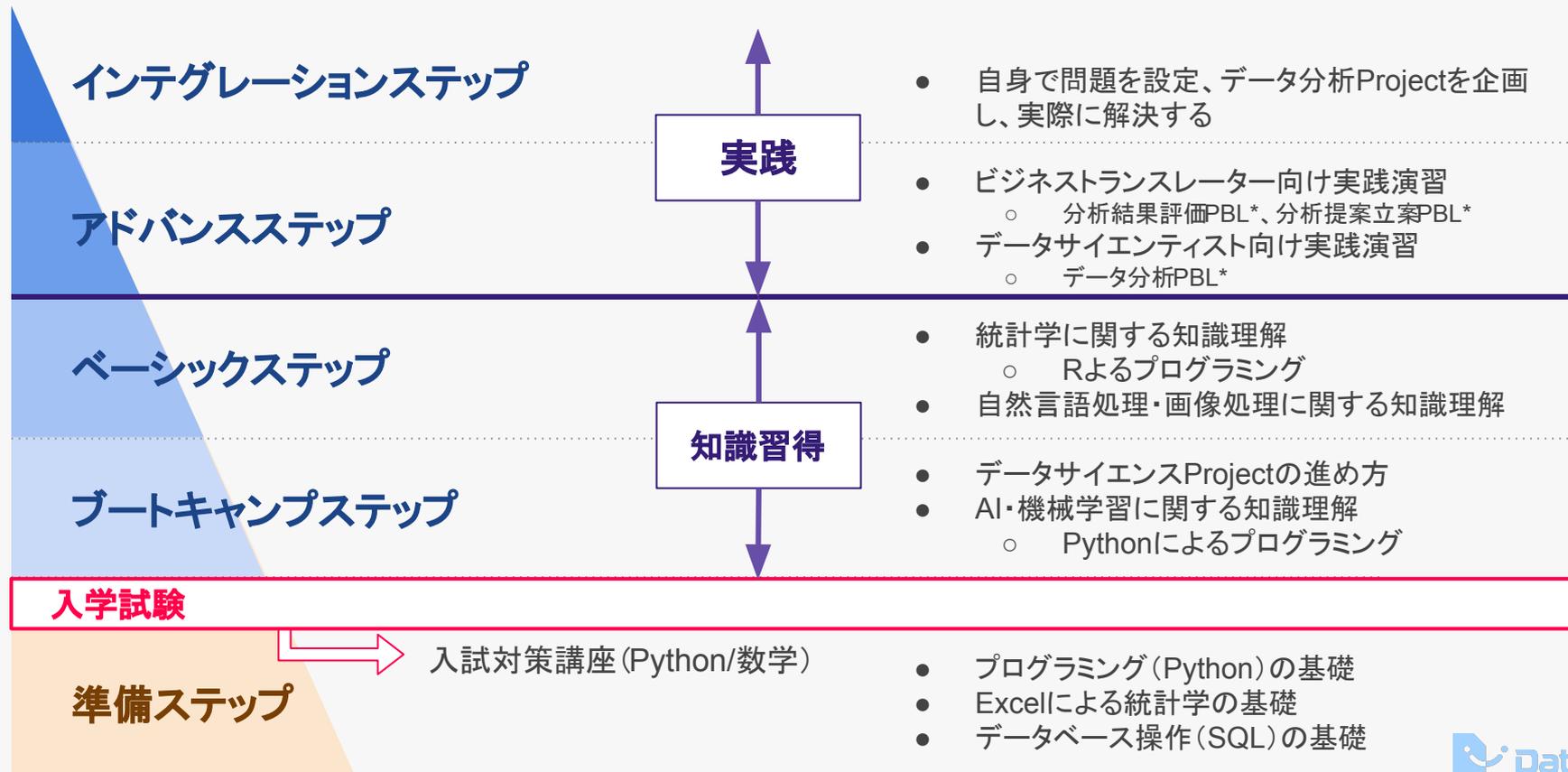
レガシー企業



テック企業



データサイエンティスト育成本講座のステップ





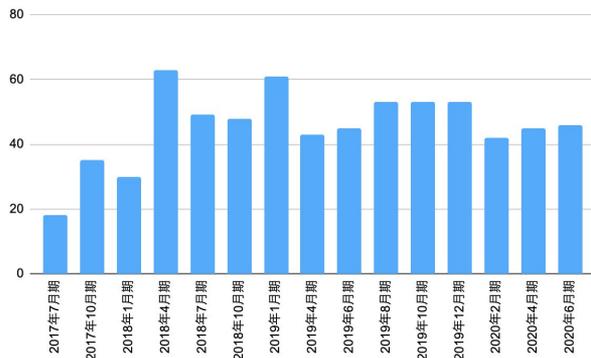
Voice & Data

受講生の声とデータ

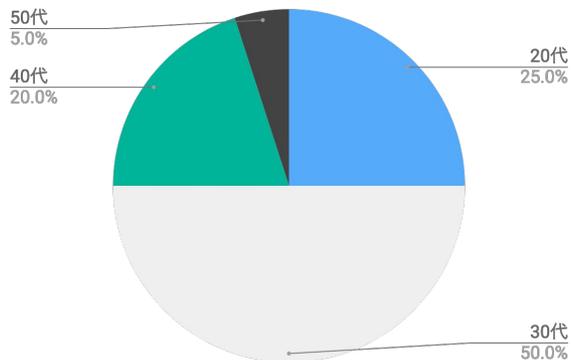


受講生プロフィール

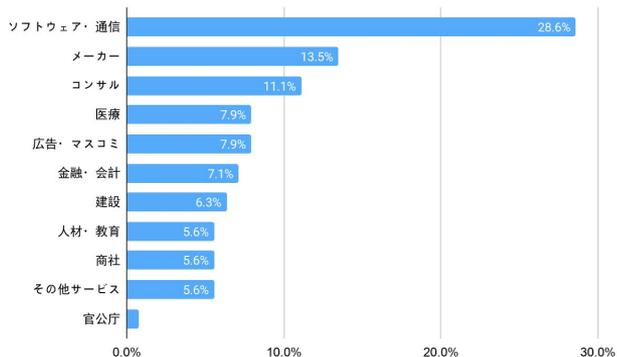
本講座入学者



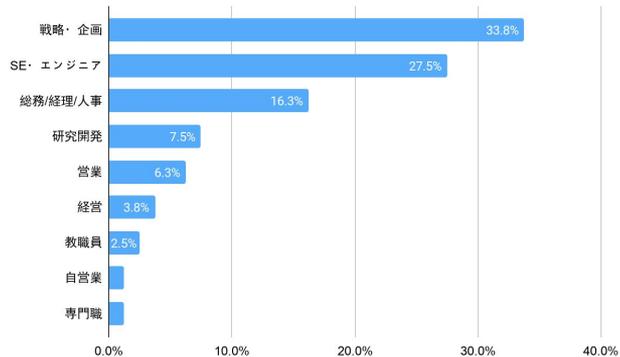
年齢



業種



職種



受講生の声(データミックスを選んだ理由)

「対面授業」だったからです。実務的なことが学べて、かつ対面での講義をやっていたのが、データミックスだけでした。

データミックスに入る前は独学で勉強をしていたのですが、独学での勉強には限界を感じました。間違った認識をしていないか不安もあってチェックをしてくれる人を探していた、というのも対面形式を選んだ理由です。

モデルの背景にある統計等を初歩的などころから学べる点と、オープンソースである PythonやRを用いて自らの手でモデルを構築する手法を実践できる点、に魅力を感じ、データサイエンティスト育成コースを受講したいと思いました。

加えて、データミックスの講師は、実務も行っているということでしたのでそのような方から直接お話を聞けるという期待もありました。

オンラインやeラーニングだと、そこだけで完結してしまいます。それはそれで良いのかもしれませんが、人との繋がりが欲しかったとい点で、データミックスの対面でのスクールを選択しました。

実際に、卒業後もデータミックスの卒業生で形成されているコミュニティにも参加しています。他のデータサイエンティストの人たちと話し、皆さんと繋がる中で一緒に学ぶことが今もできています。

受講生の声(習得したスキルと実務への適用)

色々なスキルを身につけることができました。基礎的なデータのハンドリングやケース毎の手法の引き出しも増やすことができましたし、なぜこのアルゴリズムを使うのか、といったところまでしっかり理解

ができたと思います。

実務でもしっかり活用できています。

(受講後データサイエンティストとして転職)

ベンダーが提示してくる文書解析のスコアリング等の指標についても、その出し方がどうなっているのか等の視点をもてるようになりました。

テキストを分析するといっても、形態素解析して区切ったり、ステミングして正規化したり、各行程でチューニングが必要なので、そのような 押さえるべきポイントをベンダーとディスカッションできるようになったことがよかったです。

(特許部所属)

分析する環境さえできれば、今、会社にあるデータを使ってこういうことが出来そうだと考えられるようになりました。...(中略)...実際に企画を出してみました。機械学習を使うと自分では想定していなかった顧客層を抽出することが出来るんですね。クラスター分析を用いて顧客の動きをデータとして出し、それを使ってメールを出したり、HPのリニューアルをやってみようというものです。

(企画職)



Thanks!